

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	社会福祉法人 春秋会 グループホームくぬぎ(椽)
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	長崎県 長崎市 江川町 92番
記入者名 (管理者)	汐碓 浜子
記入日	平成 20 年 1 月 23 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		理念に沿ったケアを常に心がけていますが、どうしても時間に追われて業務が優先になってしまうことがあります。業務改善・職員の意識を変える等し、より良いケアをしたいと思います。
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		徐々に関係が作られています。運営推進会議や地域の活動に参加等し、もっとグループホームを知って頂きたいと思っています。
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>事業所が特別に行っている事はありませんが、法人で取り組んでいます。法人の会議には参加しています。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価は半年に1回しています。外部評価でアドバイスして頂いた事は職員全員で話し合い、改善に取り組んでいます。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>サービスの実際、評価への取り組み状況等解りやすい様に写真や資料を用意し説明しています。民生委員さんやご家族様代表の方の意見を今後のケアに活かしています。</p>		<p>運営推進会議では、職員間では気付かない様な意見を出して頂く事がありますので、たくさんの意見を貰いながら今後のケアに役立てていきたいと思ひます。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>介護相談員の受け入れや、職員の話し合いでは判断がつかない問題や解らない事は、市の相談員に問い合わせ解決しています。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修に参加し権利擁護事業について学びました。現在制度を必要とされる方はいらっしゃいませんが、必要の方が現れた時は活用できるようにしていきたいです。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修に参加し高齢者虐待防止について学びました。研修に参加していない職員もいますが、参加者からの報告会があり全職員が学ぶ機会がありました。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約に関する説明は十分にしています。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情受付の仕組みは契約時に資料をお渡しし説明もしております。苦情があった時には、運営に反映出来る様にしています。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>来訪時には必ず状況報告を行っています。より詳しくご理解頂けるように毎月お便りを出しています。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見・不満・苦情を受け付ける窓口を設置しています。その事での説明は入居時に説明し、内容についても書類をお渡ししています。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員が気軽に意見を言える様な環境を作っています。意見や提案があった時には、十分に考慮し反映できるものがあれば運営に活かしています。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>行事や病院受診日は職員には多く出勤して貰っています。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動は最小限に留めています。離職については今まで数人ありましたが、グループホームの雰囲気にあった方を採用しています。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来るだけ研修等には参加して貰う様に現場に言っています。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	参加出来る様であれば研修に参加し、情報収集や同業者と交流してくる様に勧めています。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	何かあったらいつでも相談してくるように言っています。入居者の認知症が進む事よっての生じるストレスや悩みは尽きない事ですので、勤務体制等で無理のない勤務状況にしています。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の頑張りには良く理解しています。働きやすい環境を作れる様に努力しています。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居時には出来る限り本人様の話を良く聴くようにし、本心を理解する様に努力しています。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人様の居ない所でお話を聴く様にしています。ご家族様のサポートも行える様に努力しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時には殆どが入居を急がれている方達ばかりですが、お話を聞いて他のサービスも必要であれば、その様に対応が出来る様に努めています。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に面談をする様にしています。ご家族様から本人様へ入居の説得をして頂き、納得した上で入居して頂いております。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者様と職員がお互い協力し合いながら生活していると思います。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様にも協力して頂き、本人様が安心できる環境づくりを行っています。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	離れて暮らしていますが、お互いが思いやっているのが良く解ります。良い関係を築けるように努力しています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が気軽に来訪して頂ける様に環境づくりをしています。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	お互いの個性がぶつかり合わないよう座席の工夫や、会話でもさりげないケアを行いトラブルにならない様に努力しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了時には、何かありましたらいつでも声掛けて頂きます様にと声掛けています。実際入居者様が退居(自宅)されましたが、1年数ヵ月後に再入居されています。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様に希望は聞いています。本人様が言葉で言えない時には仕草や日頃の会話の中から本人の本心を探ります。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴は本人様に尋ねることはもちろんの事、入居時にはご家族様にも情報を頂いております。この情報を日々のケアに役立てております。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	現状を良く観察し、毎日の記録に残しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアカンファレンスや通常の申し送り時などに、課題やケアのあり方について話し合っています。本人様やご家族様にもその結果を説明し意見をもらっています。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しはきちんと行っています。期間内に変更する場合もあるので、ご家族様に報告しその状況に応じた介護計画を立て直しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は細かくかけています。その時の状況で対応の仕方は異なりますが、情報を共有し日々のケアに役立てています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	リハビリを希望される入居者様がいらっしゃいます。その方には理学療法士がリハビリをしてくれています。出来る範囲で本人様やご家族様のご希望をかなえたいと思っています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	毎月消防署に行き、緊急時の対応方法他学んでいます。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在他のサービスを利用されている方はおりませんが、希望される様であれば他のサービスを受けられる様に支援します。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	その時に必要であれば地域包括支援センターと協働していきたいと思っていますが、現在必要とされている方はいません。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様やご家族様の希望により、それぞれかかりつけ医は違います。主治医とは良い関係が保てるように努めています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医を主治医とされているのは入居者様9名中4名です。些細な事でも主治医に相談しながら、本人様にとって良い治療を考え行っています。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	かかりつけ病院の看護師とはなじみの関係の為、気軽に相談する事が出来ます。当施設は看護職がいないので、アドバイスをもらう事もあります。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には現状を把握し、早期に退院となればすぐ対応出来る様に病院関係者より情報をもらったり、医療的なことは指導して頂いています。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	当施設では医療が継続して必要となれば退居して頂く事になっています。入居時にそのことについては十分に説明しています。どんな状況になっても、早目の対応が出来る様になっています。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所の出来る事、出来ない事については入居時より十分に説明しています。その時の状況を見極め、今後どう行っていくかは主治医を含め話し合いをしています。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居者様の生活状況・出来る事出来ない事・精神面・本人様が必要としている事は口頭でも説明させて頂きますが、書類にもまとめお渡ししています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりを尊重し、さりげないケアを目標に取り組んでいます。記録等の個人情報も十分に配慮しています。	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	出来る限りご自分で出来る様に、入居者様のペースに合わせた待つケアを行っています。	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念に沿って入居者様主体のケアを行うように努めています。	その時の状況によっては業務優先になっている時があるので、反省を活かし入居者様の過ごしやすい環境を作りたいと思います。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	散髪は本人様の身体状況や望む店が無い場合、訪問美容を利用して頂いています。希望される店がある場合は、ご家族様対応にて行かれます。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に家事活動が出来ない方は徐々に増えてきていますが、ちょっとした出来る事を見つけて支援していきたいと思えます。	身体能力低下に伴い、家事活動が出来なくなっているのが現実です。食の楽しみはいつまでも残ると思いますので、今の入居者様に何が出来るのか見極め、職員と一緒に行っていきたいと思えます。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	出来るだけ好みのものを提供していますが、皆と同じでなければ不満に思う方もおられるので、飲み物やおやつは皆同じ物を扱っています。	現在飲酒を希望される方はおりませんが、今後希望される方がいらっしゃればその様に用意します。しかし、好きなものを好きなだけとなると、入居者様の健康にも影響がありますので対応を考えていかななくてはなりません。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンは記録にも残しておりいつでも確認が出来ます。本人様にとって、何をどうすれば気持ちよい排泄になるか常に話し合い支援しています。その時の状況を考慮し、オムツ類を止められる様な可能性が少しでもあれば試す様にしています。今後もこのような対応をしていきます。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を毎日したい方は毎日でも入って頂けます。入浴は無理強いはず、本人様のタイミングで入浴して頂いています。ただ、入浴嫌いの方についての支援は楽しめるものではありません。		入浴嫌いの入居者様への対応が課題です。毎回同じ様な対応で入浴には居たらないので、職員でどのような対応がその方によっていい対応なのか話し合っていきたいと思えます。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	安眠や休息を気持ちよく出来るように環境を整えています。入居者様によってはなかなか寝付けない方がおられますが、その場合は日中の活動などを工夫したり、主治医に相談したりしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	精神面・身体面の状況変化により、以前好んでされていた活動が出来なくなっているのが現状です。しかし、今出来る事や今好まれる事を把握し、役割、楽しみごと、気晴らしの支援を行っています。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を管理している方9人中2名です。お金を使っているのは1名です。本人様が管理できる方は良いですが、管理できない方については事務所にて預からせて貰っています。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出来るだけ散歩や買い物で外出しようとしています。本人様の精神面・身体面を考慮して戸外に出かけるようにしています。外出を嫌う方もおられるので、支援は個人によって異なります。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎月2回は外出し色々な所に行っています。その外出にはご家族は参加されません。ご家族様は忙しかったり遠方にお住まいであったり、ご家族様と本人様水入らずで外出をしたらどうかと勧めています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたり手紙を書くことができるのは1名のみです。その方につきましては希望時に電話が出来るように支援しています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室でゆっくり過ごせる様に環境作りをしています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしてはならないと十分に説明してあります。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	当施設は1階がデイサービスで2階がグループホームです。デイサービスが休みの日には玄関に鍵を掛けさせて頂いています。これは、防犯上の理由でありご家族様にも説明し同意して頂いています。		2階の階段口には扉がありません。平日の日中は玄関の鍵も開いていることから、事故のない様に十分に観察し対応していく必要があります。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーには十分配慮しています。居室で過ごされている方もどのような状況か時々訪室し状況を把握しています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品の保管・管理はその時の状況によって行っています。入居者様の状況を十分に把握し、管理した方が良いと判断した時は職員が一時的にお預かりする場合があります。		認知症進行に伴い、異食が考えられます。そうなった場合居室にある物品はどうしていくか検討してききたいと思います。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時の対応はマニュアル作成しています。また、個人の状況についてはカンファレンス等で把握出来ていますので、事故防止が出来る様に観察しています。		緊急時には職員も慌ててしまうと思うので、日々訓練や復習をしていきたいと思います。また、観察する目をもっと養わなければいけません。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	毎月1回地域にある消防署に応急処置等を学びに行っています。その他には緊急時の対応マニュアルがあるので、参照して対応の確認を行う様にしています。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月1回消火・通報・避難訓練を行っております。入居者様の身体状況によっては避難方法も異なりますので、その都度話し合いの場を持つようになっています。		今後も訓練を続けていきたいと思います。入居者様の身体レベルに合わせた対応を変化があった時に検討していく必要があります。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	来訪時や緊急を要する場合は、電話連絡にてご家族様にリスクについて説明しています。		来訪時や、電話連絡があった時には入居者様の現状をしっかりと伝え、今後起こりえる事を説明しておきたいと思えます。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝健康チェックを行っています。体調の変化や異常が認められた時には主治医に報告相談し、必要な対応をしています。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬については主治医や薬剤師からの説明があるので理解しています。状況に変化があれば記録に残し、主治医に報告相談しています。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日排泄チェックを行っています。水分を多く摂って頂ける様に配慮し、本人様の状況をみて適度な運動を職員と一緒にさせて頂きます。下剤も必要ですが、出来る事は工夫して行っています。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後歯磨きをして頂いております。出来る事は本人様にさせて頂き、不十分な所を職員が仕上げ磨きをしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人様の病状に合わせてそれぞれ違った支援をしています。認知症が進行するに伴い食べる事や飲む事を忘れる様になった方もおられますが、様々な工夫をしながら支援をしています。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染マニュアルを作成し、もしもの時にすばやく対応出来る様になっています。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理の徹底に取り組んでいます。食材はその日いるものを日曜以外は毎日配達して貰っています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	木の温もりある玄関になっています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月その月にちなんだカレンダーを入居者様とスタッフが協力しながら作成しています。共用の空間ではゆっくりとした時間が流れる様に、心穏やかになる様なBGMを流しています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭い空間ですが、好きな所に座れる様に椅子を設置したりしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	自宅から使い慣れた物を持ってきて頂いています。何か必 要なものがあれば、ご家族様へ相談し協力して頂いていま す。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	毎日環境整備をしています。温度調節もこまめにし、体調管 理もしています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	本人様の状況によって環境を変えていっています。しかし、 施設側での限界もあり、場合によってはご家族様の協力を得 ております。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	出来るだけ職員は待つケア・さりげないケアを心がけていま す。混乱や失敗は職員の対応で防げる事もあるので、観察 は十分しています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	ベランダは狭いので活動は出来ませんが、玄関にはブラン ターを置いて園芸を好まれる方が活動しています。		

・サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居様が、ゆっくり・いっしょに・たのしく生活出来るように努めています。日々出来ない事や解らなくなる事は増えていきますが、出来るだけご本人様にして頂き、職員は少しのお手伝いや待つケアを（ご本人様のペースに合わせる）行っています。